

令和8年第1回 交野市文化財審査委員会

日時：令和8年3月30日（月）午後2時から

場所：交野市立青年の家 2階 会議室

次第

1. 開会

2. 案件

- 1) 交野市指定文化財私部城跡の保存活用について（報告）
- 2) 鍋塚古墳の調査について（報告）
- 3) その他

3. 閉会



交野市文化財審査委員会委員名簿

(五十音順)

氏名	所属	
となみ けいしょう 礪波 恵昭	京都市立芸術大学美術学部教授	継 続
なかい ひとし 中井 均	滋賀県立大学人間文化学部名誉教授	継 続
はしてら ともこ 橋寺 知子	関西大学環境都市工学部准教授	継 続
むらた みちひと 村田 路人	大阪大学名誉教授、神戸女子大学名誉教授	継 続
わかばやし くにひこ 若林 邦彦	同志社大学歴史資料館教授	継 続



令和 8 年 第 1 回

交野市文化財審査委員会議案

令和 8 年 3 月 3 0 日

交野市文化財審査委員会

## 議 事 日 程

令和8年3月30日

日程第1 報告第1号 交野市指定文化財私部城跡の保存活用について

日程第2 報告第2号 鍋塚古墳の調査について

日程第3 その他

報告第1号

交野市指定文化財私部城跡の保存活用について

交野市指定文化財私部城跡について、保存活用の方向性を定めたので報告する。

私部城跡の方向性について（改定版）・・・・・・・・別紙1

令和8年3月30日提出

交野市文化財審査委員会  
会長 中井 均

報告第2号

鍋塚古墳の調査について

関西大学考古学研究室（井上主税教授）と連携し、測量調査等を実施したので報告する。

鍋塚古墳調査資料・・・・・・・・・・別紙2（当日配布）

令和8年1月30日提出

交野市文化財審査委員会  
会長 中井 均

# 交野市指定文化財私部城跡の保存活用について（案）

別紙1

## 事業の目的・方向性

- ①本市の貴重な歴史的遺産「私部城跡」を将来にわたり確実に保存・継承することと目的とし、特に本郭・2郭部分について確実に保存・継承することを目指します。
- ②既存の「都市計画公園（私部城址公園）」と今回、新たに設置する「（仮称）私部城跡防災公園」については、位置づけは異なりますが、立地的に隣接し、史的には同じ城跡であることをふまえ、防災公園として一体的に運用・活用し、その環境整備について進めて参ります。
- ③用地の買取や環境性整備については、有利な財源確保である「緊急自然災害防止対策事業債（緊急自償）」を積極的に活用することで、市の実質的な財政負担を抑制しながら本市の地域財産である私部城跡の保存に努めます。
- ④私部城跡を保存・継承するためには、生涯学習や観光振興といった視点で活用し、学校教育と連携した取り組みなどを通じ、市民の学び機会の創出と観光交流によるシティプロモーションとして活用して参ります。

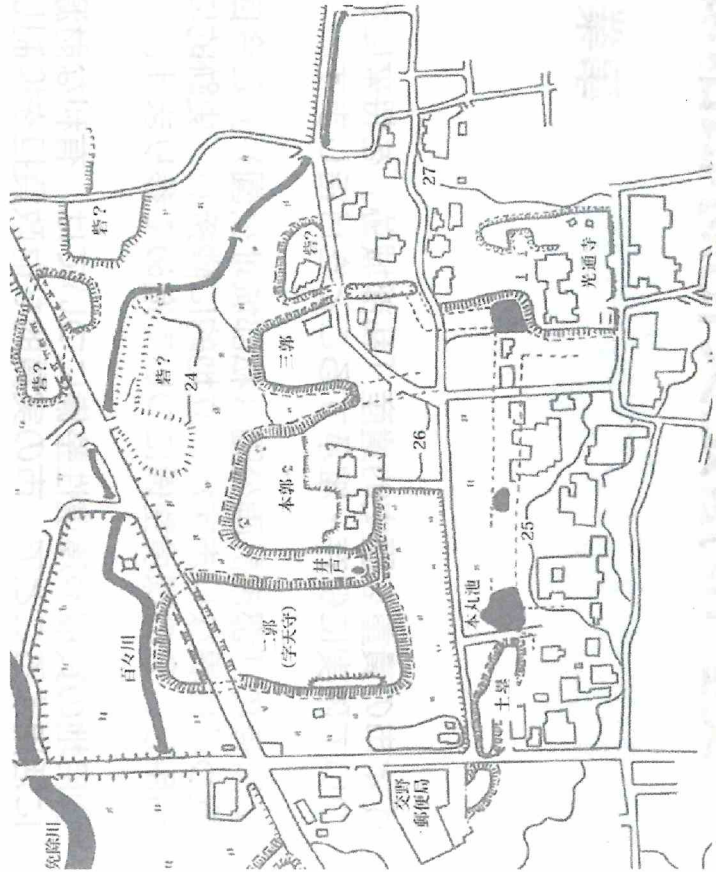
本事業は、本市の文化財政の指針である「交野市文化財保存活用地域計画」において設定された「私部文化財保存活用区域」における中核的プロジェクトとして位置づけられます。同計画が掲げるテーマ「交野の城と安見氏の記憶」を具現化するための拠点として整備してまいります。



# 私部城跡の背景

## 1. 保存すべき歴史的価値

私部城は交野市私部6丁目他に所在し、東西約400m、南北約300mの範囲に、本郭を中心に複数の郭が点在した平城であり、府下の平城の中でも現存状態が極めて良好です。近年の調査で、築城時期は1570年前後で、いち早く瓦葺きであったことや、織田信長の家臣の娘が嫁ぐなど信長との関係の深かった安見氏の居城で、信長の河内進出には重要な拠点であったことが史実として残っています。



## 2. 私部城跡を巡るこれまでの経過

日時	内容
S59-H7	私部城址公園用地買収(公社) 1720番1、1717番、1721番、1723番、1724番
H24. 2	議全会員協議会にて土地開発公社用地を含む32筆で国史跡化を目指す。
H24. 3	私部城址公園用地買収 (公社) 1738番
H29	【国史跡化について】 文化庁より国指定は困難と回答
H29. 6	大阪府との協議で、買取申出用地を追加すれば府史跡を検討と回答(本郭の民有地5筆)
H30. 5	【市としてとりまとめ】 史跡指定予定の部分については、現状のまま遺構・遺物を地下保存する。公社以外の都市計画公園予定地やその周囲の生産緑地などの買取申出があった場合は庁内で検討。
H30. 10	交野市指定文化財史跡「私部城跡」として指定
R1. 9	土地開発公社用地2筆を交野市に所有権移転
R2. 9	土地開発公社用地4筆を交野市に所有権移転
R7. 8	埋蔵文化財包蔵地内の生産緑地8筆の買取申出
R7. 9	都市まちづくり課より地権者に買取通知
R7. 11	議全会員協議会で本郭側8筆買取説明
R7. 12	議会上記買取承認、補正予算案可決

## 現状の課題と解決策について

### 1. 現状と課題

昭和59年から長期にわたり用地買収を進めてまいりました。平成30年には「史跡化の範囲」を決定した上で、国史跡化を目指しましたが、文化庁より一部の公有地化が未了であり国史跡化は困難との回答を受け、市史跡化へと修正した経緯があります。

その後、未買取エリアにおいては宅地化が進行し、城跡の破壊が進んでいます。加えて、周辺地では所有者の高齢化や世代交代に伴い、土地の維持管理が困難になりつつあります。

### 2. 解決の方向性(考え方)

貴重な遺跡を開発から守るため、市史跡化部分に加えて、本郭及び二郭並びにそれらを結ぶ用地を、保存が必要な範囲として考えます。

また、単なる史跡保存にとどまらず、公園として市民が日常及び災害時に活用できるように整備します。

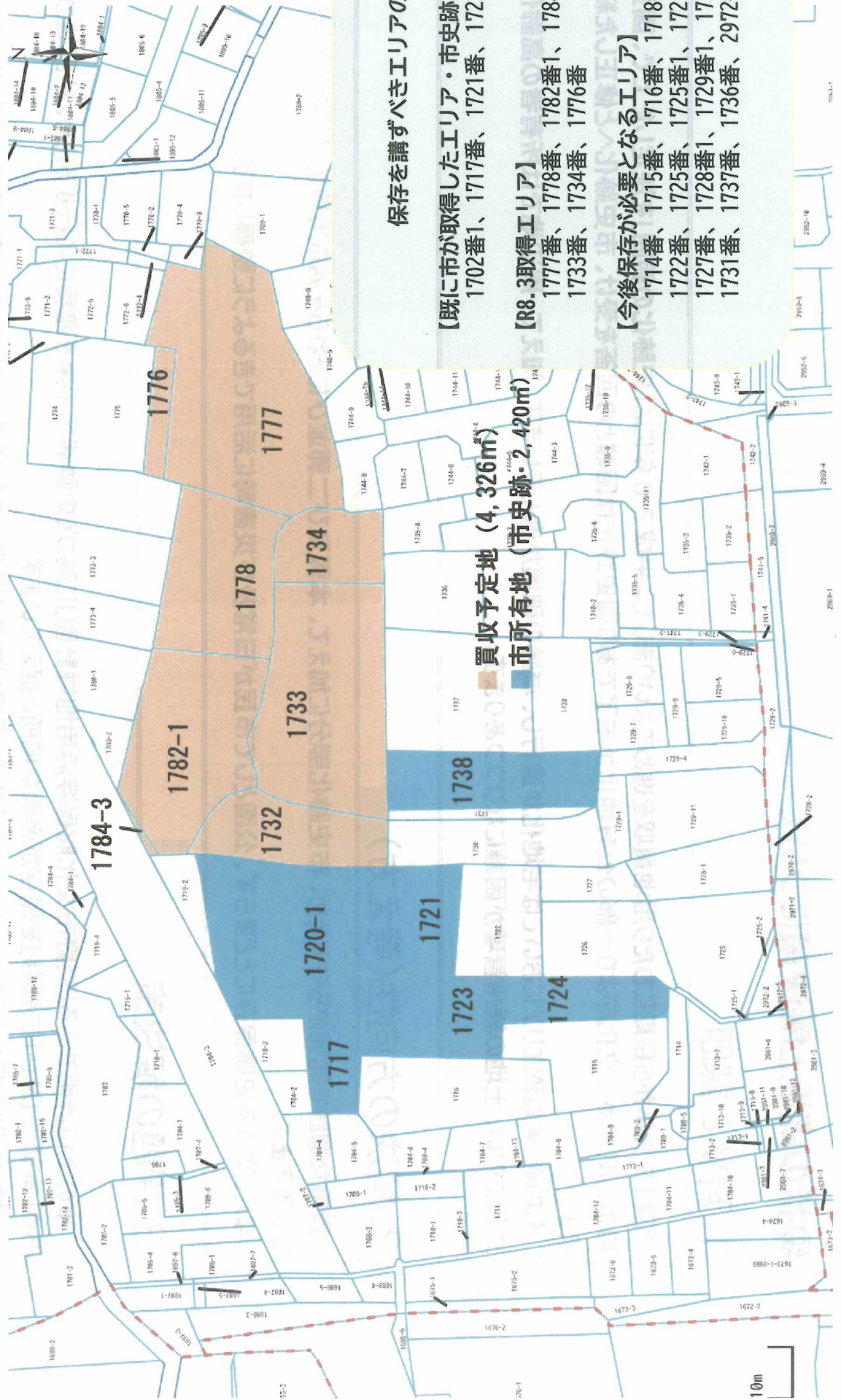
### 3. 課題の解決策

市の上位計画である「交野市文化財保存活用地域計画」に基づく史跡活用事業を確実に実行するため、私部城の核心部である「本郭部」及び「二郭部」を保存が必要な場所と捉えています。

用地の買取や環境整備については、有利な財源確保である緊自債を積極的に活用することで、市の実質的な財政負担を抑制します。

また、エリア全体を「大阪府指定史跡」として指定し、「防災・自然環境・生涯学習」の拠点として複合的に活用できる環境を整えます。

# 今回の買収地と市所有地（市史跡）との位置関係



保存を講ずべきエリアの内訳

【既に市が取得したエリア・市史跡】

1702番1、1717番、1721番、1723番、1724番

【R.3取得エリア】

1777番、1778番、1782番1、1784番3、1732番  
1733番、1734番、1776番

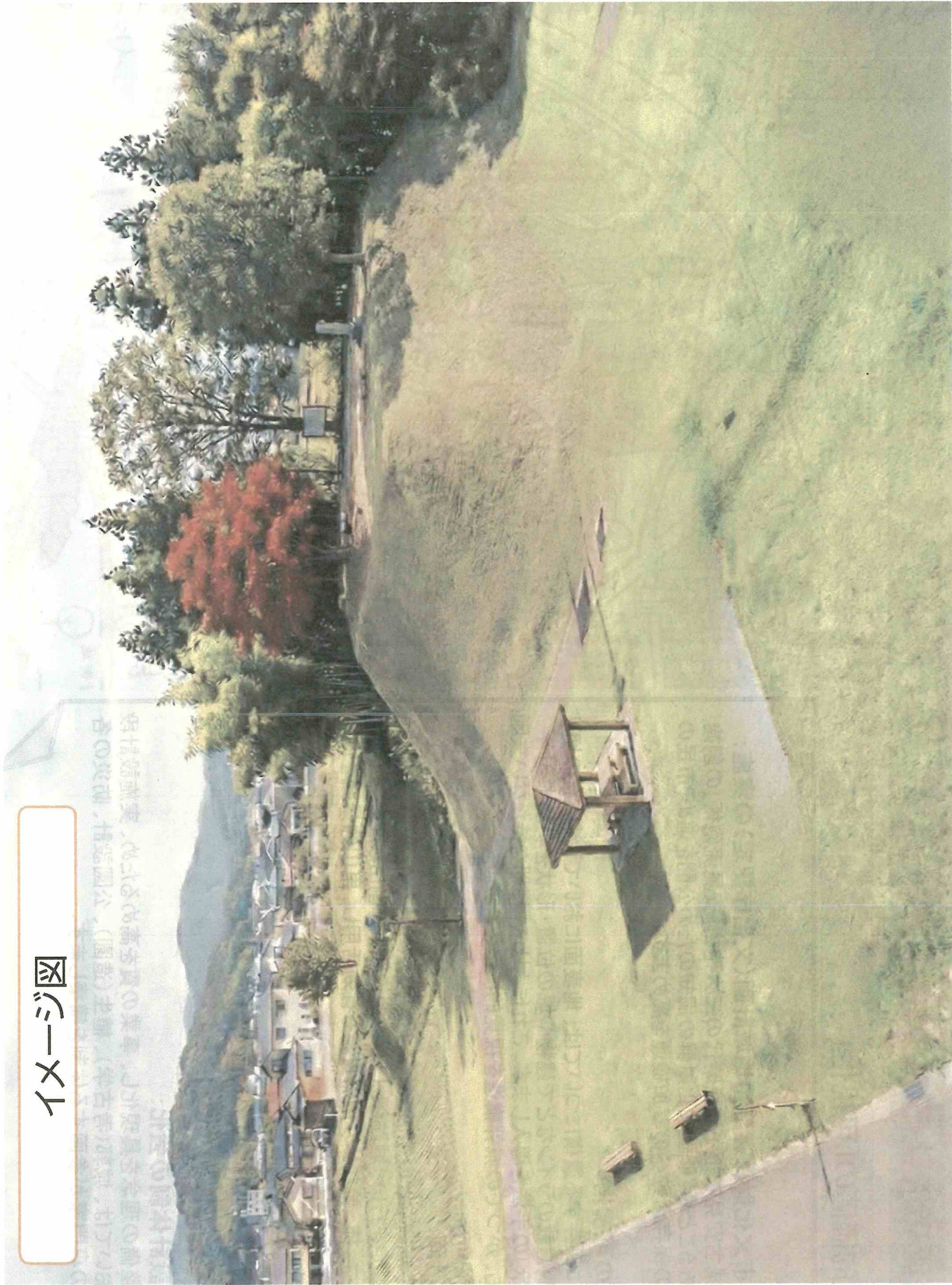
【今後保存が必要となるエリア】

1714番、1715番、1716番、1718番2、1719番2  
1722番、1725番、1725番1、1725番2、1726番  
1727番、1728番1、1729番1、1729番11、1730番  
1731番、1737番、1736番、2972番2

10m



イメージ図



## 「交野市森古墳群の基礎的研究—鍋塚古墳の検討を中心に—」

- ・ 研究代表：井上主税（文学部）
- ・ 研究分担者：村元健一（文学部）、徳田誠志（文学部客員教授）
- ・ 研究期間：2025 年度
- ・ 本研究は、大阪府（河内地域）に所在する森古墳群を対象とし、発掘調査に先立ち、古墳の立地や墳丘形態を把握するための測量調査を実施し、これを通じて得られた資料や既往調査の出土資料などをもとに、森古墳群の築造時期や性格、歴史的な意義について考察することを目的とする。

### 1. はじめに

古墳時代はその時代名称の通り、全国に古墳が数多く築造された時代であり、なかでも前方後円墳という特殊な形態の古墳が、北は岩手県から南は鹿児島県まで汎列島の的に分布している。

3 世紀中葉に築造された箸墓古墳（奈良県桜井市）を、定型化した前方後円墳の出現として、古墳時代の始まりとする見解に立つと、箸墓古墳以降の 3 世紀後半代の古墳が出現期の古墳にあたる。出現期の古墳は、瀬戸内海沿岸から近畿地方中央部にかけて主に分布するが、なかでも奈良県（大和地域）に分布の中心がある。このほか、近畿地方では、淀川右岸（山城地域）に元稲荷古墳（向日市）、淀川左岸（北河内地域）に森 1 号墳および森 6 号墳、大和川流域（南河内）に玉手山 9 号墳（柏原市）などが分布している（白石編 2002）

このように、大阪府交野市森に所在する森古墳群は、近畿地方の古墳時代前期（3 世紀中葉～4 世紀後葉）を代表する古墳群である。なかでも 1 号墳（雷塚古墳）や 6 号墳（鍋塚古墳）は、出現期の前方後円墳ないしは前方後方墳の実態を知りうるものとして、調査研究する意義は大きい。

### 2. 森古墳群の既往調査

古墳群発見は、昭和 55（1980）年に地元の小学生が周辺で土器を拾ったことがきっかけとなり、分布調査によって前方後円墳 4 基、円墳 1 基の計 5 基の古墳が確認された（交野市教委 1992）。その後、1 号墳よりも高所にもう 1 基、6 号墳（鍋塚古墳）が存在することが判明した。森古墳群では、これまで鍋塚古墳を除いて発掘調査が実施されておらず、測量を通じて墳形や墳丘規模が推定されているのが現状である。1 号墳では二重口縁壺や直口壺が、3 号墳では円筒埴輪が採集されており、築造時期が推定されている。

鍋塚古墳の既往の発掘調査（1997 年・2000 年）では、墳丘のトレンチ（調査のための発掘溝）から葺石が一部検出され、全長約 67m の前方後方墳ないしは前方後円墳と推定されている（交野市教委・交野市文化財事業団 2003）。また、後方部中央の埋葬施設については、竪穴式石室の一部かとみられる石材等が確認されたが、その規模や構造などの詳細は不明であった。

このような状況のなか、鍋塚古墳について、将来にわたる古墳の保護や史跡指定を目指し、墳丘形態や埋葬施設の構造を明らかにする調査計画が持ち上がり、交野市と関西大学考古学研究室が共

同調査を実施することになった。発掘調査に先立ち、古墳の立地や墳丘形態を把握できる詳細な測量図を作成する必要性が生じたため、なにわ大阪研究センターの公募研究班として研究費をいただき、測量調査を2025年8月20日から9月2日まで実働12日間実施した。

### 3. 測量調査の成果

鍋塚古墳は、主軸を南西―北東に向けた、全長約67mの前方後方墳である可能性が指摘されていたが、墳形の確定には至っていなかった。今回の測量調査は、100分の1縮尺で、等高線（コンターライン）は25cm間隔で作成した（過去の測量では50cm間隔）。

その結果、以下の知見を得ることができた。

①等高線が後方部においてはっきりとした直線を描き、前方後方墳であることが確実となった。  
②全長は約67mと推定されていたが、60m前後となる。  
③後方部の南西辺（隅角に近い箇所）に方形の突出が存在し、その形状や規模も明らかになった。1号墳の後円部南西側には直径約20mの円墳が位置しており、鍋塚古墳の後方部と突出部の位置関係と類似する。  
④後方部は、南北辺が東西辺に比べ長く横長となる。  
⑤前方部の長さは約33mを測り、前方部は先端にむけてやや広がる形状（撥形に近い）となる。  
⑥尾根上に古墳は立地しており、墳丘の南側（南東）以外は地山を削り出して築造していることが推測される。

このほか大阪府によって、府下の市町村の点群データ（大阪府グラウンドデータ）と微地形図（赤色立体図）がホームページ上で公開されており、交野市域の赤色立体図から等高線図を作成した（大阪府許可済み）。

### 4. おわりに

今回の測量調査を通じて、鍋塚古墳が全長60m前後の前方後方墳であることが明らかになった。来年度以降は、交野市と共同で発掘調査を予定しており、古墳の規模、埋葬施設や副葬品の詳細を明らかにしたい。また、築造時期を明らかにできる資料を確保したい。これによって、河内地域において最古の前方後方墳と推定される鍋塚古墳、さらに森古墳群の様相を把握し、古墳時代前期における淀川左岸の北河内地域の位置付けや大和地域との関係性を明らかにしたい。

#### 【引用・参考文献】

井上主税 2007「第3章考察 第5節 交野市域の埴輪概観および古墳の動向について」『交野市の埴輪』

交野市教育委員会編 1992『交野市史 考古編』

交野市教委・交野市文化財事業団編 2003『鍋塚古墳 2000―1次調査 有池遺跡 2002―1次調査』

交野市教育委員会・交野市文化財事業団編 2007『交野市の埴輪』

白石太郎編 2002『日本の時代史1 倭国誕生』吉川弘文館

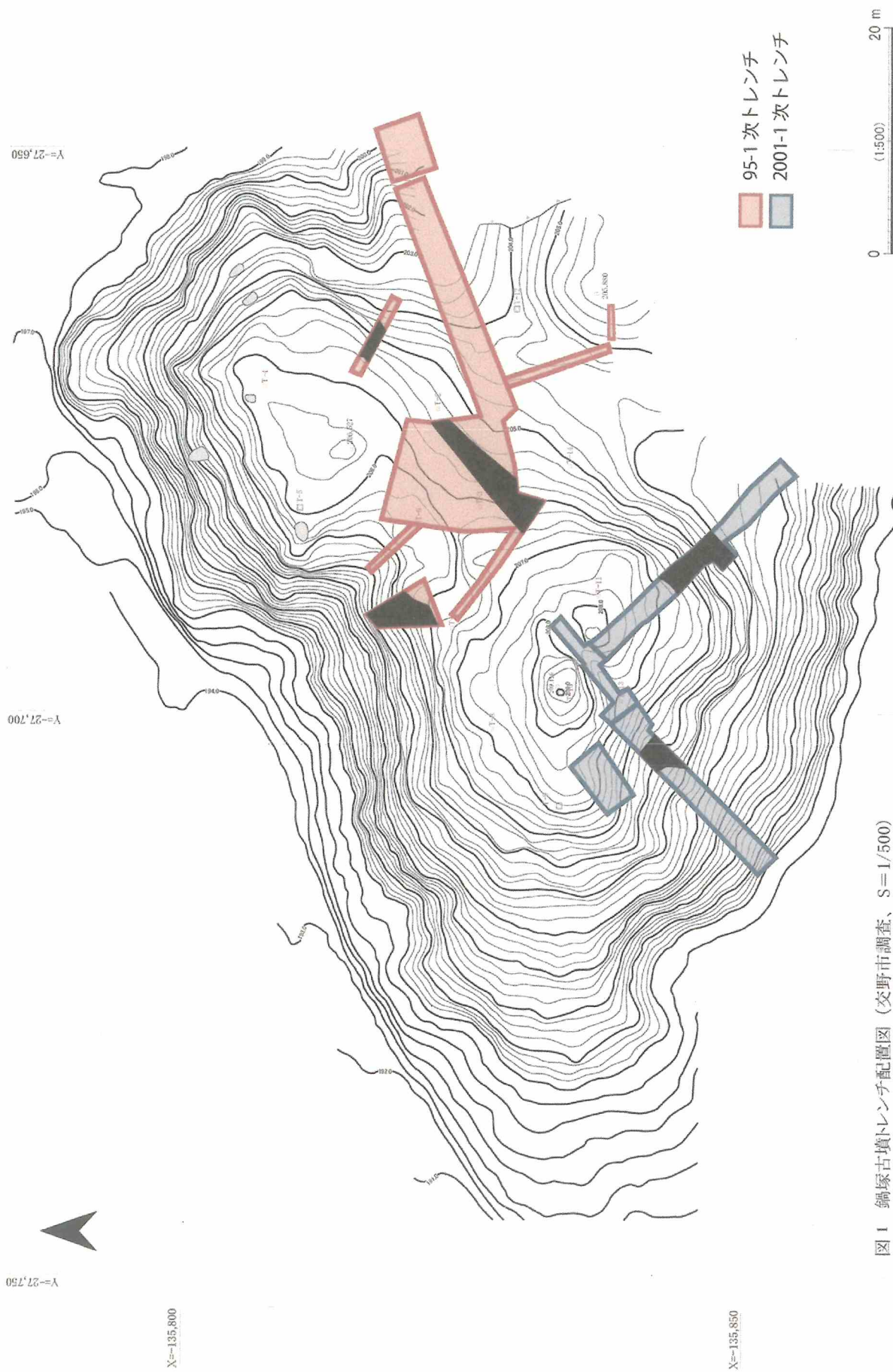


図1 鍋塚古墳トレンチ配置図 (交野市調査、S=1/500)



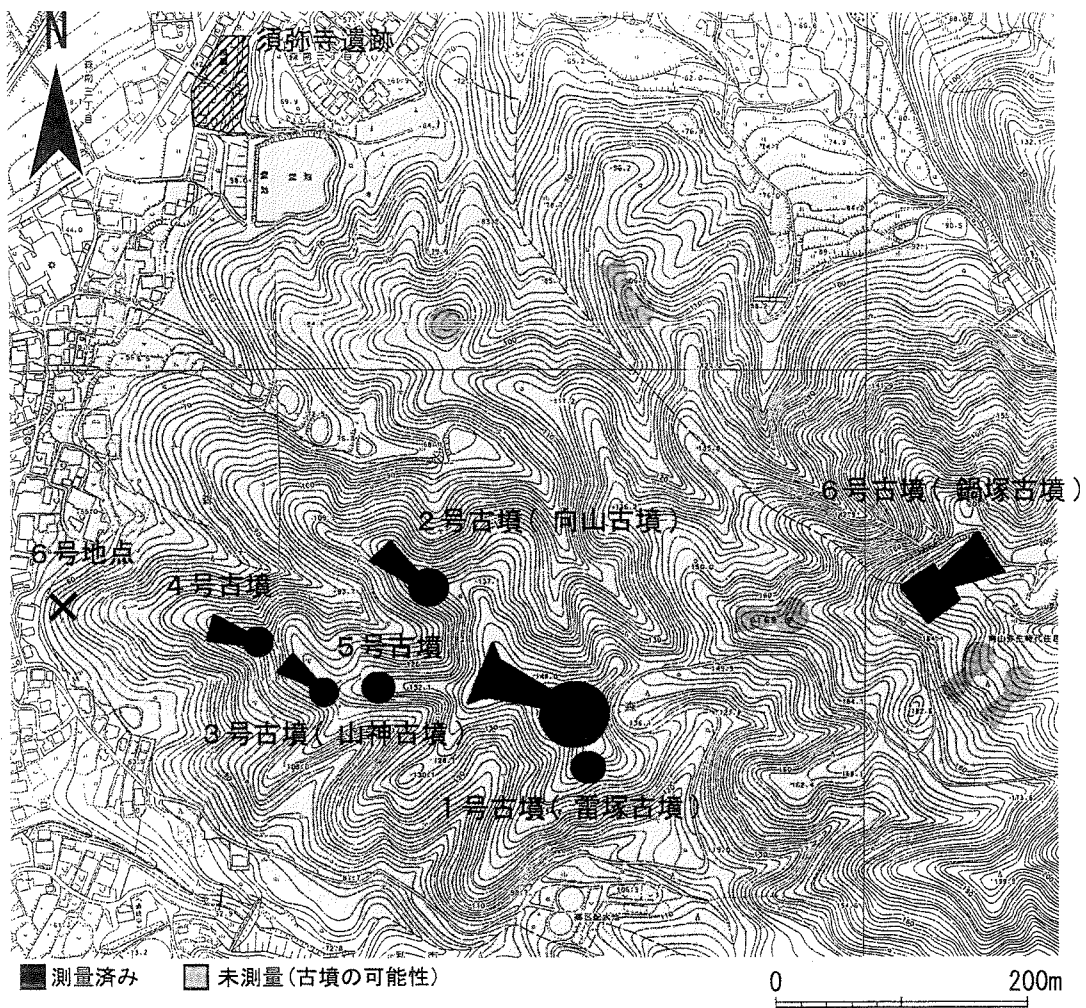


図2 森古墳群

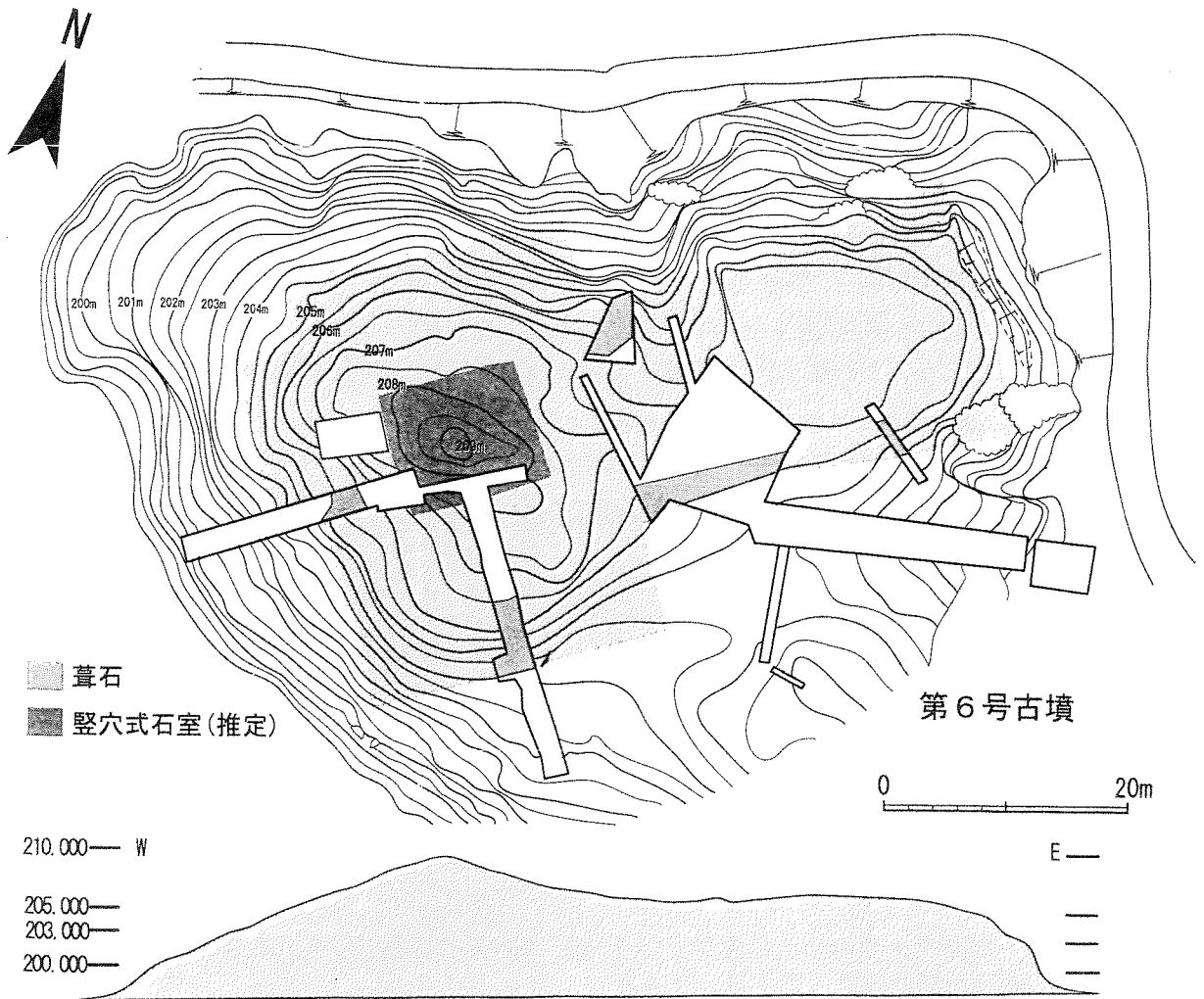


図3 森古墳群

6号古墳(鍋塚古墳)

